

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。

今春卒業する事業構想学群価値創造デザイン学類4年の佐藤葵さんです。宮城大学管弦楽団でクラリネット奏者として活躍。令和4年12月に開催された第九コンサートへの思いと4年間の思い出をお寄せいただきました。

## 三年ぶりの第九 感謝の思い溢れる4年間

事業構想学群 価値創造デザイン学類4年 佐藤 葵

2022年12月11日、3年ぶりに「宮城大学研究フォーラム&第九コンサート」が開催された。振り返れば、多くの方々の熱い思い、強力なサポートがなければ実現できなかったことであると、大学生活最後のステージを終えた今強く実感している。

コロナ禍に入り、私達管弦楽団は他のサークル・団体と同様、様々な制限下で思うように活動ができない期間が続いていた。練習もままならない状況であったが、SNSでの団員との交流や新規団員の勧誘、時間帯をずらしての少人数での練習など、工夫をしながらその時できる活動に精一杯取り組んだ。また、第九コンサートは2年連続中止となったが、例年と同じく合唱団の方々との合同演奏会にいくつか出演させて頂き、コロナ禍ではあったが目標を持ちながら活動を続けることができたと考えている。

そして今年度に入り、いよいよ3年ぶりの第九に向けて本格的な練習が始まったものの、私は今一つ心が晴れない気持ちでいた。なぜなら、昨年も同様の動きがあったにも関わらず開催

が叶わなかった為である。今年ももしかしたら難しいのではと、心のどこかで覚悟をしていた。しかし、この頃には大幅に規制が緩和されたこともあり、日々の練習に活気が戻り、そんな暗い気持ちを吹き飛ばす程に毎回の練習が楽しくて仕方がなかった。

もはや中止を恐れている暇はないと、一回一丸となつて練習に取り組み、無事3年ぶりの第九を開催することができた。間隔を空けての舞台セッティングやマスクを着用しての合唱など、3年前とは大きく形式を変えての公演となったが、再び開催できた喜びで私達は胸が一杯になった。

このような状況下にも関わらず、私達管弦楽団は多くの方々に支えられて沢山のステージに立つことができ、今年も念願の第九も叶えることができた。顧問の渡部勝彦先生、杜の都混声合唱団の皆様、コンサート運営に携わって下さった関係者の皆様、そして共に練習に励んできた団員みんなへ、感謝の思いで一杯である。

